



令和6年度総合教育センター・プロジェクト型研究について▶▶

センターだより前号(第160号)に引き続き、今年度総合教育センターで取り組んだ研究を紹介します。

研修・ 支援部

認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむための学習指導の在り方 ～学びのパスポートの結果・分析を基に、授業改善プランを創造する～

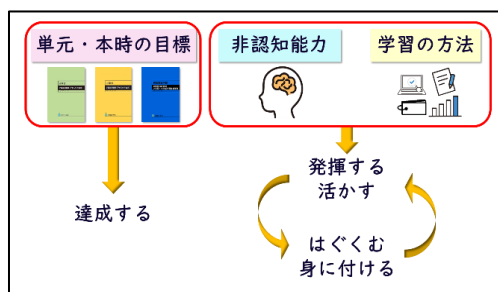
研究について

本研究では、「学びのパスポート」で得られたデータの分析方法について検討し、各学校が授業改善を進める際の一助となることを目指しています。

「学びのパスポート」の分析について

「学びのパスポート」とこれまでの学力調査との大きな違いは、項目反応理論(Item Response Theory: IRT)を用いて認知能力の伸びを把握している点です。合わせて、質問調査を一新し、非認知能力の変容の継続的な把握及び認知能力と非認知能力との関連性を把握している点も、これまでの調査とは異なる点です。把握したデータをどのように分析すれば効果的な授業改善につながるか、研究を進めているところです。

本研究では、個々の児童生徒の強みを活かすことがよりよい授業改善につながるのではないかと考え、今年度はデータ分析によって特徴的な傾向が明らかになった個人に着目したり、学級を様々な集団ごと(学力ステップ集団、特徴的な非認知能力の傾向がある集団)に分けたりして、非認知能力や学習の方法の強みを探ることに挑戦し、検討を進めてきました。



次年度に向けて

今年度検討した分析方法について、次年度以降は実証的な検証を行ってその効果を確認め、各学校の授業改善に役立つ研究成果をお届けできればと思います。



特別支援 教育部

ICTを活用した読み書きに困難のある児童生徒への 支援に関する知見の整理とナレッジベースの作成

研究について

本研究では、通常の学級に在籍する読み書きに困難のある児童生徒へのICTを活用した学びの研究に継続して取り組んできました。



研究の成果

今年度は、これまでの研究知見や情報等を一箇所に集めたナレッジベースを作成し、京都府総合教育センターホームページ(ITEC)への掲載を計画し、作成しています。8年間の研究から、以下の想いを込めて研究知見の整理を進めています。

- ニーズに応じた情報を、迅速に見つけ出すことができる。
(豊富な実践情報/研究成果や関連情報へのアクセス)
- 児童生徒自らが情報を得たり、活用したりすることができる。
(ICT機器を学習で活用した児童生徒の声)

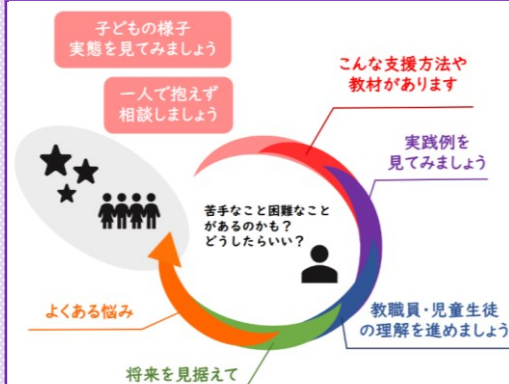
等

公開に向けて

府内の先生方に共有・閲覧していただくことで、児童生徒の学び方の支援の一助となれば幸いです。
情報の公開は3月末を予定しています。



図：学びのナレッジベースのイメージ

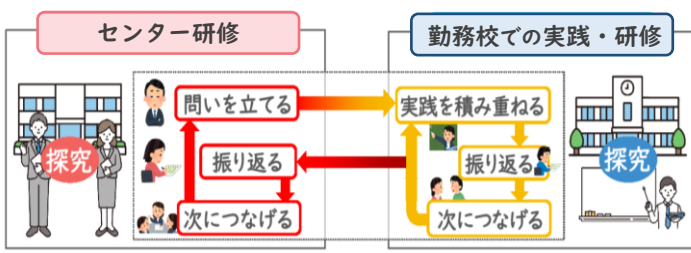


自立した大人になるためには、段階的な支援が必要であると考えます。そんな過程をイメージして上記の図を作成しました。

研究について

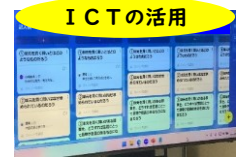
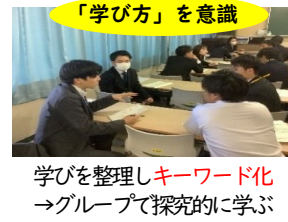
中教審答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」では、「新たな教師の学びの姿」として、**自らが問いを立て、実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく探究的な学びの大切さ**が述べられています。京都府総合教育センターでは、初任者研修において、教員がそのような「新たな教師の学びの姿」を実現していくことができるよう研修の在り方について研究を進めています。

初任者研修における「新たな教師の学びの姿」のイメージ



研修の中で初任者が課題意識を持ち、自校に戻った後もその課題解決に向けて勤務校の実践に臨めるよう、探究的な学びを意識し、研修内容やその進め方を工夫しています。

自ら「問いを立てる」ために



オンライン上での考えの共有

振り返り（受講報告より）



グループの話し合いや講師の話を聞く中で、**多くの問いや発見**がありました。今後も他者との対話を重視にして、**自分自身に問いを持つこと**を大切にします。

地域教育支援部

音楽科の思考力を高めるパフォーマンス課題の開発 ～能の授業デザインと題材を貫く問いの設定～

研究について

小中学校音楽科及び高等学校芸術科音楽の学習指導要領においては「生活や社会の中の音や音楽（文化）と豊かに（幅広く）関わる資質・能力を育成すること」が教科目標として示されています。この資質・能力を育むことを目指して、当センター音楽科講座でパフォーマンス課題を提示しながら成果と課題をまとめ、次年度の講座に反映します。

中高音楽実技「能の連吟を楽しもう・お囃子を創ろう」講座での取組

伝統音楽の中でも能は難しいイメージがあり、指導に悩まれる先生方のために、能「羽衣」「敦盛」の謡や仕舞の実技、音楽創作アプリケーションのお囃子の入力実技の体験後に、授業デザインを3つ提案しました。



- ① 「リズム」に焦点化してICTと組み合わせる。
- ② 「謡」を七五調の歌詞を持つ歌唱共通教材に関連させて歌う。
- ③ 能「敦盛」の仕舞を体験して詞章との関連を考える。

今後、研究紀要で提示すること

- ・表現と鑑賞に関連させた授業デザイン
- ・他教科とのカリキュラム・マネジメント
- ・伝統音楽の小学校から高等学校への接続



特別支援教育部

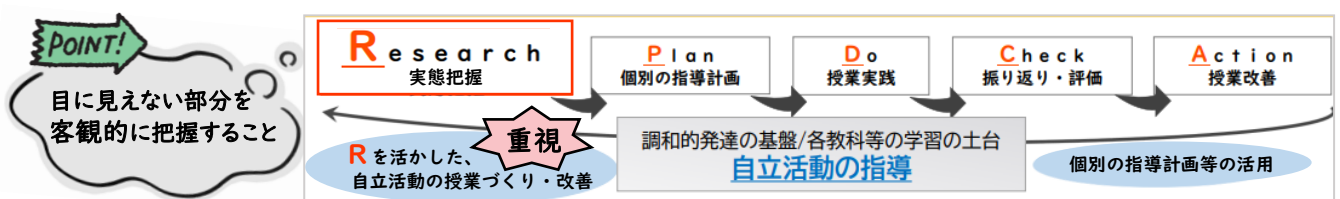
特別支援学級の授業づくり～自立活動の指導を軸に～

研究について

自閉症・情緒障害特別支援学級（R5年度小学校、R6年度中学校）の個々の児童生徒の実態把握（Research）を重視したR-PDCAサイクルで実施する自立活動の授業づくりに焦点を当て、研究協力校7校と共に研究を進めました。

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する多様な児童生徒の主体的な学びを促進するために、実態把握（Research）する力を高め、自立活動の充実、授業力・指導力の向上を目指します。

自立活動の授業の質を向上させるR-PDCAサイクル



特別支援学級担任への授業づくりの効果的な支援

- ・校内で特別支援学級の授業づくりを支える体制
- ・府立特別支援学校のセンター的機能としての伴走的な支援の活用



今後の予定

- ・取組や成果をまとめたリーフレットを3月末に公開予定
- ・自立活動に関するQ & A集を公開予定

詳しくはこちらから

